

## 【トランプと世界】 第45回

トランプがアメリカ大統領になって2年たつ。TPPからの離脱、「世界の警察官」をやめる政策など、それまでアメリカが主導してやっていた多くのことが変更されている。いったい世界はどうなっていくのか。文部科学省は「社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難」と、世界像を探究する意思が希薄だ。

トランプ当選を予測していたのは、ネット上では副島隆彦や田中宇（ともにブログ参照）、テレビでは木村太郎、研究者では、管見の限りエマニュエル・トッドぐらいで、多くはヒラリーが勝つことを疑っておらず、ヒラリー勝利を願っていたようだった。この傾向は現在も続き、アメリカの中間選挙を民主党の「勝利」と思っている人が多い。

事実に基づいた研究成果があまりない。「共和党候補指名受諾演説」を読むあたりから押さえなおすし



かない。他殺が多いこと、道路などの整備の崩壊など深刻な国民生活の現状改善を訴え、ヒラリーによる中東の平和破壊を糾弾している。就任後、北朝鮮への爆撃を回避し、マティス国防長官を辞任させてまでシリアからの撤兵をはかっていることなどは事実として押さえておきたい。

トッドの発言の根拠になっている〈家族構造の研究〉は注目に値する（佐藤の解説は的はずれ）。親との同居の継続性、兄弟間の平等さ、近親婚禁止の程度による7類型ある家族構造の中で人間は生まれ、成長し、思想を持ち、次の社会をつくる。

（研究部・加藤聡二）

### 参考文献

- ①エマニュエル・トッド／佐藤優「トランプは世界をどう変えるか? 『デモクラシー』の逆襲」(朝日新書 朝日新聞出版、2016年。64、「演説」37頁以下参照。
- ②トッド(荻野文隆訳)『世界の多様性―家族構造と近代性― 藤原書店、2008年(原著合本1983年・84年)。41～56頁、60～71頁、330～346、445頁参照。